

相談支援従事者初任者研修標準カリキュラム

科目	獲得目標	内容	研修形態 時間数
1 障害児者の地域支援と相談支援従事者(サービス提供管理者・児童発達支援管理責任者)の役割に関する講義(5時間)			
(1)	相談支援(障害児支援)の目的	<ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳、基本的人権の尊重のための支援の意味と価値を理解する。 利用者理解、利用者自己選択・自己決定の重要性について理解するとともに、障害児者の地域の生活の実情について理解する。 相談支援の基本的価値観は、障害者の権利に関する条約の趣旨に基づくべきことを理解する。 	講義(1.5時間)
(2)	相談支援の基本的視点(障害児者支援の基本的視点)	<ul style="list-style-type: none"> エンパワメント及び本人を中心とした(本人の選択・決定)支援を実施するにあたり、相談支援(障害児者支援)の基本的な姿勢について理解する。 利用者又は障害児の保護者(以下、「利用者等」という。)の意思及び人格を尊重し、常に当該利用者等の立場に立つて行われるものでなければならぬことを理解する。 	講義(2.5時間)
(3)	相談支援に必要な技術	<ul style="list-style-type: none"> 本人を中心とした(本人の選択・決定)支援を実施するにあたり、獲得すべき支援技術について理解する。 	講義(1時間)
2 相談支援におけるケアマネジメントの手法に関する講義(3時間)			
(1)	相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 本人を中心とした(本人の選択・決定を促す)ケアマネジメントのプロセスと必要な技術の全体像について理解する。 	講義(1.5時間)
(2)	相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点	<ul style="list-style-type: none"> 各相談支援事業の役割と機能を理解し、相互が連携することにより地域において効果的な相談支援体制が構築されることを理解する。 相談支援において地域資源を把握しネットワークを構築することの重要性について理解する。 (自立支援)協議会の目的、しくみ、機能について理解する。 	講義(1.5時間)

3 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律および児童福祉法の概要並びにサービスのプロセスに関する講義(3時間)

(1)	<p>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律および児童福祉法(以下、「障害者総合支援法等」)の理念、現状とサービス提供プロセス及びその他関連する法律等に関する理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法等の目的、基本理念や障害福祉サービス等の基本的な内容を理解する。また、障害者総合支援法等における自立支援給付等の仕組みを理解する。 ・介護保険制度対象の障害者の障害福祉サービスを利用する場合の給付制度について理解する。 ・障害者支援法における権利擁護と虐待防止に係る法律を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの障害福祉制度の変遷を踏まえ、障害者総合支援法等による障害者の自立と共生社会の理念、その実現を図るために必要な障害福祉サービス及び児童福祉サービス等の制度概要について講義を行う。具体的には、自立支援給付等(障害児通所支援、障害児入所支援を含む)、地域生活支援事業、不服申し立て、障害福祉計画及び障害児福祉計画、(自立支援)協議会の位置づけについて理解する。 ・CRPDを踏まえつつ、介護保険制度の対象となった障害者について、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づき「自立支援給付と介護保険制度との適用関係等について」に基づき、心身の状況やサービス利用を必要とする理由は様々であることから一律に介護保険サービスを優先的に利用するものとはせず、個々の事情を踏まえる等適切な支援を提供するために必要な制度等について講義を行う。 ・障害者の権利を擁護するための関連制度(障害者の権利に関する条約、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、成年後見制度や日常生活自立支援事業等)の関係性及び概要について講義を行う。 	講義 (1.5時間)
(2)	<p>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法における相談支援(サービス提供)の基本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等の提供における相談支援専門員とサービス管理責任者等の役割、両者の関係性を理解する。 ・サービス提供において利用者の権利擁護と虐待防止を図るために相談支援専門員とサービス管理責任者等が果たす役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業の成り立ち、相談支援の体系(自立支援給付、地域生活支援事業)について理解するための講義を行う。 ・指定計画相談支援・指定一般相談支援・指定障害児相談支援の事業の人員及び運営に関する基準に基づく、相談支援専門員としての責務及び業務(サービス等利用計画案等の作成、サービス担当者会議の実施、サービス等利用計画等の作成、モニタリング)を理解し、適切で質の高いサービス提供において重要な役割を担う立場であることを認識するための講義を行う。 ・指定障害福祉サービス事業等の人員、設備及び運営に関する基準に基づく、サービス管理責任者等としての責務及び業務(個別支援計画の作成)を理解し、適切で質の高いサービス提供において重要な役割を担う立場であることを認識するための講義を行う。 ・サービス提供においては相談支援専門員とサービス提供管理責任者等との連携のあり方とその重要性、サービス等利用計画等と個別支援計画の関係について理解する。 ・「障害者虐待防止の手引き」等を活用し虐待防止における相談支援専門員とサービス管理責任者等が果たすべき役割を理解するための講義を行う。 	講義 (1.5時間)

4 ケアマネジメントプロセスに関する講義及び演習(31.5時間)

(1) 相談支援の実際(ケアマネジメント手法を用いた相談支援プロセスの具体的理解)				
①	<ul style="list-style-type: none"> ・受付及び初期相談並びに契約 ・アセスメント(事前評価)及びニーズ把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本相談支援の実際について習得する。 ・受付及び初期相談(インテーク)、契約の各場面から求められる実践的な技術を習得する。 ・利用者の主訴を明確にし、本人・家族等からの情報収集とその分析をおして相談支援専門員としての専門的な判断の根拠を説明できる技術を習得する。 ・また、アセスメントにおいて収集した情報から、専門職としてニーズを導くための技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及びその家族との信頼関係の構築の重要性について講義を行う。 ・契約に関する制度上の位置づけや留意事項に関する演習を行う。 ・受付及び初期面談の場面における相談支援の視点と信頼関係を気づくための技術(受容、共感、傾聴)について模擬面談などを通じて習得する。その際、真意の確認において特別な配慮を要する障害者(知的障害者や自閉スペクトラム症者等)とのコミュニケーションに留意した技術を習得する。 ・主訴を始めとする本人に関する心身や環境等についての情報収集とそれをもとにしたアセスメントにより、ニーズを導き出すまでの思考過程に関する演習を行う。 ・演習によりアセスメントに必要な情報収集の項目理解と方法・技術を習得する。 ・利用者が持つ内面的及び環境的な強みを重視してアセスメントを行うことの重要性を理解する。(ストレングスモデル) ・生物・心理・社会モデルやICF等を活用し、収集した情報を的確に分析し生活全体を捉える視点と生活ニーズを導き出す方法・技術を習得する。 	講義・演習 (6時間)
②	<p>目標の設定と計画作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本相談支援を基盤とした計画相談支援の実際について習得する。 ・本人の意向とニーズを踏まえた目標設定と目標を実現するためのサービス等利用計画等作成技術を習得する。 ・また、より適切で質の高いサービスを提供するためには、サービス等利用計画と個別支援計画等の連動が重要であることを理解する。 ・他の多様な職種とのアセスメント結果の共有やサービス等利用計画の原案に対する専門的見地から意見収集の意義を理解しサービス担当者会議の開催に係る具体的な方法を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族の生活に対する意向及び総合的な援助の方針を記載するにあたっての留意点に関して演習を行う。 ・アセスメントから導いたニーズを解決するための視点と達成するための目標の関係について講義する。 ・計画の策定の視点と手順は、本人のエンパワメントを意識しつつ、①本人の力(ストレングス)の発揮と活用、②一般社会・生活資源の活用、③給付制度(医療・年金・就労・教育・生活保護等)の活用、④障害福祉サービスの活用、⑤満たされないニーズの確認とそれを満たす社会資源開発・地域づくり等、⑥制度・政策改革等を基本とする意味を理解するための講義を行う。 ・インフォーマルサービスも含めた社会資源の種類及び内容を理解するとともに、インフォーマルサービスの活用も含めた支援内容の作成について講義を行う。 ・一連の支援計画作成の手法・技術を習得するための演習を行う。 ・サービス担当者会議を開催するにあたり、事前の準備や開催当日の準備など、必要な業務を理解するとともに、会議の進行の手法等に関する演習を行う。 ・模擬サービス担当者会議を開催を行い会議進行の手法・技術を習得する。 ・サービス担当者会議は、利用者及び家族並びにサービス提供事業者も含め、利用者支援していくための方向性を定める場であることから、相談支援専門員によりアセスメントの結果を共有することの重要性を理解する。サービス等利用計画と個別支援計画等との整合性を確認することの重要性を理解する。 	講義・演習 (3時間)
③	<p>評価及び終結</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本相談支援を基盤とした計画相談支援の実際について習得する。 ・ケアマネジメントプロセスにおけるモニタリングの意義、目的や多職種との連携によるサービス実施の効果を検証することの重要性を理解する。 ・また、検証の結果、支援が終結されることの意義と留意すべきことについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及びその家族、サービス担当者等との継続的な連絡や居宅を訪問し利用者面接することの意味を理解するための演習を行う。 ・演習によりモニタリングにおける視点や手法、状況の変化への対応の技術を習得する。 ・モニタリング結果の記録作成の意味と、記録にあたっての留意点を理解するための講義を行い、演習により手法を習得する。 ・評価表等を活用し目標に対する各サービスの達成度(効果)の検証の必要性を理解し評価手法を習得する。 ・相談支援従事者の依存性を避け、自立支援を進めるうえで、相談支援の終結とセルフケアマネジメントへの意向の重要性について理解し、その作成方法についての講義を行う。 ・サービス等利用計画等の再作成を行う方法について講義により理解し、演習により技術を習得する。 	講義・演習 (3時間)
実習ガイダンス				
	<p>実習ガイダンス</p>	<p>研修における実習の位置づけと目的、実施方法を理解し、効果的な実習に結び付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習は、相談支援の実践現場を通して様々なことを学ぶことができる機会であるとともに、これまでの講義や演習を通して身に着けた知識・技術を試行する機会でもあり、効果的な実習になるようその目的について講義を行う。 ・実習の流れや実習時の心構えなどに関する講義を行う。(実習を通して、地域ごとの社会資源等の状況や現場での倫理的課題などについても意慮を向けるよう認識する。) 	講義 (1時間)

4 ケアマネジメントプロセスに関する講義及び演習(31.5時間)			
(1) 実践研修			
① 実践研究			
実践研究1 (実践例の共有と相互評価1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら実施したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえてわかりやすく説明できる技術を習得する。 ・他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の基礎講義に関する実習1により各自が作成した基本情報、アセスメント及びプランニングの内容について、グループごとに共有及び意見交換を実施する。 ・エンパワメントの視点を盛り込んだプランづくりになっているか、利用者の持つ内面的及び環境的強みを重視したアセスメントを実施できているか、プラン内容の根拠として収集された情報からのアセスメント結果が適切であるかどうか等に留意し受講者による相互評価を行う。 	事例研究 (6時間)
実践研究2 (実践例の共有と相互評価2)	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら再実践したアセスメント及びプランニング等について、その根拠を踏まえてわかりやすく説明できる技術を習得する。 ・他者からの多角的な意見により視点が広がり、アセスメントが深まることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の基礎技術に関する実習2にて各自が実施した追加の情報収集、再アセスメント、修正したプランニング内容について、グループごとに実践例の共有、意見交換及び相互評価を実施する。 ・留意事項については実践研究1に同じ。 	事例研究 (4時間)
実践研究3 (実践研究とサービス等利用計画作成)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループによる実践研究を通じて、サービス等利用計画作成について理解を深め、技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習により作成した実践例により1例選択し、グループによる再アセスメントを実施し、ニーズの明確化及び支援の検討を行う。選択実践例の地域に存在する社会資源を想定して具体的なサービス等利用計画(障害児支援計画)を作成する。 	事例研究 (6時間)
研修振り返り			
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体の振り返りを行うことで、今後の学習課題を認識し、自己研鑽意欲を高める。 ・また、研修受講者間でのネットワークの構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修全体の振り返りを行うにあたって、グループ又は全体で意見交換を行い、専門的助言を含めて、研修における学習の成果や今後の学習課題の意識付けのための講義・演習を行う。 ・現場で生じうる課題への対応や共同で研修する機会を作るため、研修受講者間においてネットワークの構築を図る。 	講義・演習 (2.5時間)
5 相談支援の基礎技術に関する実習			
(1)			
相談支援(ケアマネジメントの基礎技術に関する実習Ⅰ)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習現場での相談支援(ケアマネジメント)のプロセスの経験を通じて実践にあたっての留意点や今後の学習課題等を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス等を利用する障害児者への居宅訪問を行い、面接による情報収集・アセスメント、プランニングを行う。 	実習
相談支援(ケアマネジメントの基礎技術に関する実習Ⅱ)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習現場での相談支援(ケアマネジメント)のプロセスの経験を通じて実践にあたっての留意点や今後の学習課題等を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研究1(実践例の共有と相互評価1)における相互評価を踏まえ、必要に応じて追加の情報収集及び再アセスメントを実施し、プランニング内容の修正を行う 	実習 (2.5時間)
地域資源に関する情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援(ケアマネジメント)に活用する地域資源の実態について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域(市町村・障害保健福祉圏域等)における地域資源(公的機関、障害福祉サービス、障害児支援サービス提供事業所、(自立支援)協議会など)に関する情報を収集し、所定の書式に記録する。 	実習